

***** 目次 *****

P1 代表のご挨拶	宮澤 富美雄
P2 仲間たちの近況報告 (1)	
1 班	鹿本 郁代
2 班	竹山 秀規
P3 仲間たちの近況報告 (2)	
3 班	長尾 雅人
4 班	青木 恵美子
P4 私の玉手箱	猪野 守
P5 写真コーナー	渡辺 文子
P6 樹形ウォッチング	遊上 真一
P7 新人紹介コーナー (1)	
P8 新人紹介コーナー (2)	
リレー随筆	藤原 雄平
P9 絵画コーナー	玉尾 ひとみ
//	岩城 正大
俳句・川柳	谷坂 修二
//	山上 恵子

◇自然と文化だより◇

地震の影響で、6/22活動が中止になりました。6/8に続いての中止です。地震も当初感じた以上に被害が大きく、鉄道網を中心に復旧にも時間がかかっています。被害に遭われた方にはお見舞い申し上げます。

梅雨でもあり、室内で過ごす機会も増えていると思いますので、文章作成や絵等の趣味に時間を取り、投稿に繋げていただければと思います。

N.A



～代表のご挨拶～

2年目の代表として

代表 宮澤 富美雄

昨年4月の代表就任時に、今後さらに科が発展していくために必要なこと、その方向性として、私なりに 次の5つを考え、お知らせしました。

それは

- ① キツすぎず、適度なユルさがあり、居心地が良いこと
- ② 硬直化せず、変化・進化できる柔軟性があること
- ③ 自由にモノが言える風通しの良い科であること
- ④ 参加して楽しい活動企画があること

そして、少しずつでもいいから

- ⑤ 勉強ができること

こうした方針に基づいて、1年間代表を務めさせていただきましたが、方向性としては間違っていないと思われしますので、今年度も、引き続きこの方向で進めていきたいと考えております。

以上に加えて、今年度、私が推進したいことは『調査・研究活動の充実』です。

これは、2016年に実施された＜中期ビジョン検討会議＞においても、「今後の方向性」として提言されているもののひとつです。

幸いにも、今年度は遊上さんに責任者を引き受けていただき、「クロモジ属大調査」として、さっそく活動を開始していただくことができました。また、各班の担当委員の方もお願いすることができましたので、今後の活動・成果を楽しみに考えています。

「いまさら調査・研究などしなくても……」というご意見もあるようですが、常に新しいことにチャレンジしていくことは必要なことだと思っておりますし、ひとつひとつ形あるものが出来上がっていくことは、とても楽しいことだと考えています。

<こんな言葉もありますので>

やったことのないことを始めよう

行動しよう

やったことのないことに飛び込んでいく

勇気があればいい

新しいことを始める

そのことさえ忘れなければ

人は老いない

(マルティン ブーバー)。

出会えたミヤマキリシマ

1班 鹿本 郁代

「ミヤマキリシマは1m程度の低木で枝先に2~3個の紫紅の花をつける。火山活動により生態系が攪乱された山肌で優占種として生存できる。霧島・阿蘇・雲仙・九重など九州各地の高山に自生する。九重町の町の花である。」

10年程前に久住山から坊がつると縦走した時は時期まだ早くミヤマキリシマを見られませ



んでした。この花で山がピンクになるのをいつか見たいと思っていましたが、念願になって5月下旬、少し早いかなとも思いましたが、桜も早かったし大丈夫

かなと思い決行。阪九フェリーで2泊。山で1泊。裾野で3泊。ゆっくりの山旅。快晴の坊がつるの法華院温泉そばの立中山に登り、ここの満開のミヤマキリシマに「ワーすごい」と感激しました。枝先に2~3個の花なんてとんでもない！枝が隠れる程咲いています。花の時期には宿泊者全員で歌う「坊がつる讃歌」で有名な法華院温泉に宿泊し、翌日、メインの大船山と平治岳に登りました。遠くから見るとピンクの芝桜が山一面に咲いているようです。花いっぱいの急斜面を登り頂上へ。360度の展望で遠く、以前登った大崩山・阿蘇まで見えました。花の中での昼食。至福の時を過ごしま



した。満開の時は行列をして登るそうですが、それほど人も多くなくラッキーな1日でした。福岡の平尾台で、さわやかなカルスト台地の中を歩き、鶴見岳で最後のミヤマキリシマを見て、天気にも恵まれたミヤマキリシマと温泉の旅を終えました。

軒先の植物園

2班 竹山 秀規

一般的に、植物観察と云うと、野外の著名な野山を散策することを連想するが、植物とはその様な遠い場所にあるのではなく、ごく普通に我々が住んでいる身近な場所にも、多数存在する。

私が住んでいる所は、主要駅や基幹道路の近くで、マンションが多く立ち並んでいる、比較的密集した住宅地域であり、決して野山に近い環境ではないが、それでも

① 駅から自宅までの道路沿いには、街路樹や花壇が整備されており、



② マンションにはツタが生え、植栽には樹や草花が植えられており、



③ 且つ、向かいの新築マンションには、植栽に植えた樹木に名札まで取り付けられている。



④ 更に、斜め向かいにある公園の周囲には、桜、マツ、カシ・シイ類が植えられ、春は花見の宴も催されている。

こうして見ると、遠出しなくても、日々植物に接する環境で過ごしている訳であり、まさに一步、外に出ると植物に囲まれた‘軒先植物園’の中で生活していることになる。

従来、意識していなかった植物が目に入ることで、新しい発見をすることが多いが、一方、余り目を凝らし過ぎて、道端の植物の同定が出来ないことが多く、これが現在の自分のビョーキとなってしまっている。(おそらく今後も完治することは無いと思うが・・・)

最高で最適な 4 月と仲間

3 班 長尾 雅人

『4月感 花とりどりの 香ばしさ』

現役時代仕事柄、3月4月はほとんど山野に出かけることなく、休日にも仕事に追われる日々でした。だから、本格的に4月を山野で楽しめたのは、人生初のことでした。山野の豊かさの堪能体験は最高です。心に残った花を挙げると、

- 1 日 横尾山ーコバノミツバツツジ
- 2 日 高取山ーイロハモミジ
- 3 日 妙見付近ーエドヒガン
- 7 日 甲山森林公園ーザイフリボク
- 8 日 六甲山ーショウジョウバカマ
- 10 日 諭鶴羽山ーイズセンリョウ
- 12 日 六甲山ーミヤマカタバミ
- 13 日 箕面ーウワミズザクラ
- 14 日 山田道ーシュンラン
- 17 日 西宮名塩ーホウチャクソウ
- 18 日 六甲山ーオオカメノキ
- 19 日 妙見山ーハクサンハタザオ
- 21 日 六甲山ーヤマナシ



エドヒガンの群落



ヤマナシの花（バラ科）

- 24 日 藍那里山公園ーギンラン
- 25 日 武田尾ーキシダマムシグサ
- 26 日 六甲山ーギョイコウ（御衣黄）

1ヶ月でこれまでの1年分を見たように思います。

そんな花との出会いがあるのは、仲間との出会いがあったればこそです。地元神戸の六甲山の観察会仲間ですが、シニア自然大学校での風組、高等科、自然と文化科、と仲間がどんどん広がりました。いろんな人がいて、それが面白い。細かく観察したい人、雰囲気を楽しむ人、歴史文化に関心のある人、企画をきっちりしたい人等々。いろんな人の集まりだからお互い寛容であることが一番。自主性を持って、認め合っていければ最高です。

その点で、今年の我々新入科生11名は、いつも金曜日の活動の後には、反省会をきちんと行う最高で最適な仲間なのであります。

3 本のメタセコイア

4 班 青木 恵美子

我家のベランダから見えるこじんまりした神社に狐の耳のようにとび出している3本の木がある。何だろう？杉か檜かな？とじっくり見ることもなく過ごしていた。この神社には秋祭りがないこともあり、関心がなかった。

ある年、亡義母に「どうして祭りがいいのか。」と聞くと、昔（戦前だと思うが）秋祭りがあったことやこの神社の位置はもう少し南にあり、境内も広く、そこで自転車の練習をすることができたことなどを教えてくれた。それ以降も神社との関わりはお正月の参拝と地域清掃ぐらいだった。

ところが、昨年高等科でメタセコイアの実を使った工作をすることになり、メタセコイアの葉や実についてじっくり観察をする機会があった。同じ頃、地域清掃で行くと高等科で見た同じ実が境内のあちこちに落ちているのにびっくりした。神社にメタセコイア3本、何故神社に・・・と疑問が出てきたと同時に、亡義母の言葉『移転』の文字が浮かんできた。

そこで、昔のことを調べてみると『以前は、現在地の南200メートルの南池（白鳥池）の西堤上にあったが、昭和19年大和海軍航空隊飛行場建設のために移転を余儀なくされ、昭和21年に現在地に社殿を新築し遷された』（まちづくりマップより）と書かれていた。

戦後社殿を新築された後、境内に何らかの形でメタセコイアが植樹されたのだろう。詳細は分らないが、現在、3本とも幹周り約230cmある。これ程、大きくなるとは思わず植樹されたのかもしれない。3本のメタセコイアから近所の神社の歴史の一端が垣間見えた。

戦争による飛行場建設のため神社やお墓までもが強制的に移転させられ、その上標的にされ空襲もあったそう。人々の生活に大きな影響があったことを改めて認識した。



「3本のメタセコイア」



苔玉作りは奥が深い

3班 猪野 守

最近私がはまっているのは、押し花、ハーバリウム、クイーリングテープグクラフト、そして、苔玉作りです。

今回は、その苔玉づくりのお話をさせてください。ぜひあなたもチャレンジしてみてください。

作り方は色々ありますが、私は、ケト土2（またはピートモス2）、赤玉1、乾燥水ゴケを刻んだもの1、を用意します。土は湿気を好む植物にはケト玉をそれ以外はピートモスが合うと思います。

ケト玉はアシやマコモや水苔などの水生植物が枯れて長い年月を経て土になったもの。

それを、バケツまたはボールで攪拌します。ケト土は黒い色が手に付いたり、爪の間に入ったりしてなかなか取れませんので、ゴム手袋をつける方がいいでしょう。

次にそこに少量の水を注ぎます。これを繰り返して、土を耳たぶくらいの柔らかさにします。その時のコツは、赤玉の塊が無くなるようにつぶしながら、練りこみます。

これができたら、植栽する植物を用意します。植物は、好みで選べばよいのですが、草系は熱心に水管理が必要です。ツタや観葉植物も良いですね。私は、ケヤキやセンダン、ハゼ、モミジ類が紅葉もあり好きです。根はきれいに処理します。伸びすぎているのは切ります。毛根は出来るだけ残し、今生えている場所の土を少しつけます。

そこまでできたら、いよいよ仕上げです。

私の場合は、土は始めは団子にします。それを両手でにぎられるくらい丸めたら、真ん中に親指を突っ込んで、穴をあけます。さらに、壁に押し付け穴を広げます。この時が、運命の分かれ道。下手にするとヒビが入り団子にはなってくれません。だからと言って水を多くやると形になりません。

真ん中に植物を配置します。

土団子は、最初は少し上長につくります。仕上げは、余った土をもう少し柔らかくこねて舌状にして外側に重ねて貼り付けてゆきます。

これで、基本構造は出来上がり。

最後がお化粧です。

苔を貼り付けます。

苔と言えば、ハイゴケ、スギゴケ、スナゴケ、カモジゴケなどがありますが、私がまとめやすく思

うのはハイゴケです。スナゴケはきれいですが、苔玉には向きません。苔リ्यूムには、使えますし、色はきれいです。

できた玉に苔が重ならないように、貼っていきます。しかし、レイアウトしてもくっつくわけではありません。ボロボロと落ちやすく、私のように短気な人は「あっ！もう！」となります。

私は苔をU字に曲げた針金を挿して仮止めします。仲良しの奥様にホールドしてもらうのも良いでしょう。

苔の固定は、黒の木綿糸かテグスで行います。

糸は、目立たないので、適してはいますが、しばらくすると腐ってボロボロになってしまいます。土がきっちり形づくられていなかったら、形が維持できず、壊れてしまいます。

テグスは腐りませんが光って目立ちます。

細いものを使用しましょう。

何重にも巻いて苔がはがれないように、そして円くかっこよくなるように、仕上げてください。

それで、出来上がりです。

保存は、水やりを欠かさないようにしましょう。

乾燥してきたら、苔が固くなりますので確認できます。でも、苔は根性でよみがえるのです。中の植物にいきわたるように上の穴から中に水がしみるように注いでください。スプレーがおすすめ。

植物はその植物に合わせて剪定をして、形を整えましょう。あまり伸びすぎると不恰好になります。盆栽を育てるような要領で整えます。

園芸皿においても良し、木片チップにおいても良し、吊り下げても良し、趣のある素敵なものになることまちがいないし。



2018年5月9日

3班 渡辺 文子



溪流沿いに一面に咲いていました



茎が折れ曲がっているものもありました



花がちぎれ落ちて
花茎の部分だけが
なくなっているものがたく
さんありました
クリンソウまでも
シカが食べるように
なったのではと思います。



◆◆◆ 呑み込む木 ◆◆◆

1班 遊上 眞一

樹木は 接触すると、最初は相手を押しのけようとしますが、相手が どかないときは次に 呑み込みにかかります。

樹皮の厚いクヌギなどより、薄いクロガネモチなどのほうが、呑み込みは盛んなようです。



京都 鞍馬 薬王坂にある石仏。
アカマツの巨木に 抱かれています。



木造風の柵を、しっかり呑み込んだ スギ
(箕面滝道)



幹に 一周巻かれた青い針金を、呑み込み
少し膨れたクロガネモチ (土師ノ里)



何重にも 幹に巻かれた針金を、すべて
呑み込んだシンジュ (箕面 オが原林道)



柵に喰い込んだ ナンキンハゼ
(河内長野 観心寺)



広がる場所がなく、柵の中で 盛り上がった
トウカエデの根元 (神戸 北野坂)

新人紹介コーナー（１）

①：氏名 ②：所属 ③：講座生の期、組
④：住所 ⑤：他の所属 ⑥：自己紹介



- ① 鹿本 郁代
- ② 1 班副班長・観察委員会
- ③ シ 23 期 緑組
- ④ 西宮市
- ⑤ 武庫ネイチャー

⑥ 新しい環境に慣れるのがなかなかです。山と花が大好き。樹木や草花のことをもっと広く知りたいたいと思います。



- ① 斉藤 和江
- ② 2 班副班長・観察委員会
- ③ シ 23 期 風組
- ④ 松原市
- ⑤ 鉱物クラブ、自然学

⑥ 以前は高山植物などに目を奪われていましたが、最近は、身近な自然、駅までの道やコンクリートの隙間から芽を出す野草達との出会いを楽しんでいます。



- ① 松澤 淑子
- ② 2 班・観察委員会
- ③ シ 23 期 緑組
- ④ 大阪市
- ⑤ 武庫ネイチャー、アロマセラピーの会

⑥ 野山や里山を散策しながら野辺の木々や草花に名前と呼ばけられる様になれたらと思っています。



- ① 長尾 雅人
- ② 3 班副班長・観察委員会
- ③ シ 23 期 風組
- ④ 神戸市
- ⑤

⑥ 「ゆっくり・ゆかいに・ゆういぎに」の 3 ゆ精神をモットーに目を細めながら歩みたいです。このいい縁をより膨らませられるようよろしくお願いします。



- ① 村上 好子
- ② 1 班副班長・企画委員会
- ③ シ 23 期 緑組
- ④ 奈良県北葛城郡
- ⑤ ならなぎ、京とおうみ

⑥ 今は片田舎に住んでいますが、都会で育った私は自然体験に乏しく、植物や動物の生き様を教わるたびに感動しています。よろしくお願いいたします。



- ① 竹山 秀規
- ② 2 班・企画委員会
- ③ シ 23 期 緑組
- ④ 豊中市
- ⑤ この指たかれ、ならなぎ、千里ネイチャー

⑥ 健康増進の為、テニスを週 3 回しています。自然と文化科へは、体力維持(野外自然観察)と頭脳活性化(植物の勉強)両面で役立つと思い、入科しました。



- ① 青木 茂
- ② 3 班副班長・観察委員会
- ③ シ 23 期 風組
- ④ 奈良県天理市
- ⑤ ならなぎ、鉱物クラブ

⑥ ハイキングや山登りに行くと、樹木や野草に目が行くようになってきました。これを機にそれらの名前を少しでも覚えていきたいと思っています。



- ① 山口 千恵子
- ② 3 班・観察委員会
- ③ シ 23 期 緑組
- ④ 守口市
- ⑤ 千里ネイチャー、鉱物クラブ 展葉、アロマセラピー

⑥ 40 才からは健康のためにテニス・書道を、60 才からはシニアに入り、植物を学び始めました。まだまだ知識不足でわからないことばかりです。宜しくお願いします。

新人紹介コーナー（２）

- ①：氏名 ②：所属 ③：講座生の期、組
④：住所 ⑤：他の所属 ⑥：自己紹介



- ① 青木 恵美子
② 4 班・観察委員会
③ シ 23 期 風組
④ 奈良県天理市
⑤ ならなぎ、鮎物クラブ

- ⑥ 家庭菜園をしながら、周囲に生えている草花（雑草）にも興味が出てきました。草花の知識を少しずつ増やしていきたいです。



- ① 上山 富美代
② 4 班・観察委員会
③ シ 23 期 緑組
④ 和泉市
⑤ 和泉葛城ネイチャー、自然学、なにわの伝統野菜研究会

- ⑥ シ自大での学びに自然を「よく観る」奥深さを知り、趣味の山行の仕方も変わってきました。さらに深めていければなぁと思っています。宜しくお願いします。



- ① 藤原 泰子
② 4 班副班長・観察委員会
③ シ 23 期 風組
④ 神戸市
⑤ 武庫ネイチャー

- ⑥ 2 年間色々とお教わりしましたが、もっともっと知りたい(主に植物)と思いますので宜しくお願い致します。



リレー随筆

琵琶湖のホンモロコ

4 班 藤原 雄平

「琵琶湖周航の歌」は、加藤登紀子が歌って、全国に今や知らない人がいない歌となりましたが、ご承知の通り、元々は旧制第三高等学校ボート部の歌。昨年 2017 年は、この歌が誕生して 100 年目にあたり、加藤登紀子プロデュースによる記念の音楽祭が天津で開催され、その実行委員長を務められたのが、嘉田前滋賀県知事。今年 1 月の自然学講座で講演いただきましたが、締めは予想通り、「琵琶湖周航の歌」の大合唱となりました。

その時、嘉田さんから、都合がつけば自分もぜひ参加したいと過大な言葉をいただいた琵琶湖観察会を、先日実施しました。目玉は



ちょうど時期を迎えたホンモロコの産卵観察。琵琶湖に生息する魚種は、問題のブラックバスやブルーギルなどの外来種を含め約 50 種。琵琶湖の魚の中で最高に美味なのが、琵琶湖固有種のホンモロコと評されていて、体長 10～13cm の小魚ですが、焼いてよし、煮てもよし、揚げても、佃煮もと、多様に食されています。但し、湖岸整備による産卵場所の減少や、外来魚の食害により、近年では漁獲量が激減。休耕田利用による養殖など対策が急務となっているのが現状です。

ヨシの茎に産み付けられた卵を湖中に入って見



るため、全員が洞長靴を着用しました。アユ釣りなどで経験のある人を除き、ほとんどの人が着用初体験で、それだけで興奮気味。身長よりはる

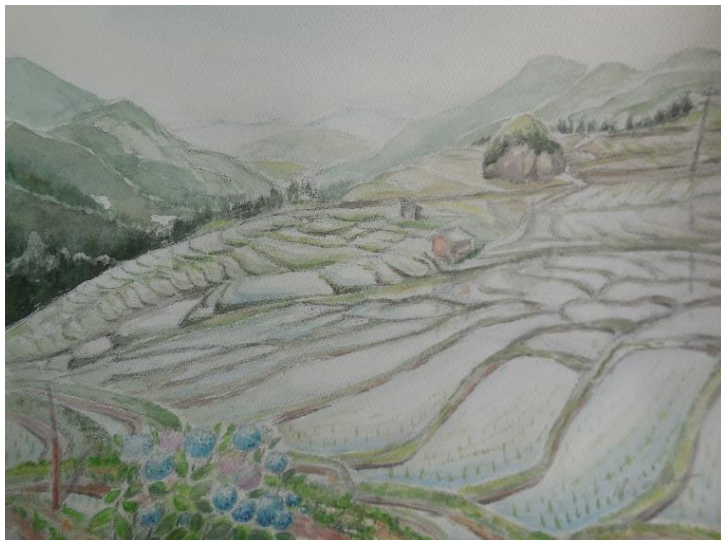
かに高いヨシのジャングルを抜けて水辺に。そこには水面から突き出たヨシの水面辺りの茎に数ミリのホンモロコの卵が無数に産み付けられていました。小さな命の輝きに崇高な気持ちになると共に、琵琶湖水位の調整のため湖面よりも上部の茎に残された多くの卵たちの無念さを想いました。経済優先か、自然保護優先か、よくあるテーマがここにもありました。

観察会では外来魚釣りにも挑戦し、僅かの釣果でしたが、ブルーギル駆除に協力しました。

絵画コーナー

丸山千枚田

4班 岩城 正大



4班 玉尾 ひとみ

愛犬



夏



俳句・川柳コーナー

3班 山上 恵子

俳句

段毎に丈の異なる青棚田
千枚田三株だけの田植済み
園児去り植田に残る足の跡

川柳

捨てたけどやはり要るわと拾う癖
先の世の混乱気になるこの世評
そこかしこ凹んだ夢の殻だらけ

4班 谷坂 修二

俳句

ヤマザクラ燕と競う高さかな
雉が鳴き眠りを覚ますサトザクラ
ウワミズの花は何処かとたぐり寄せ



皆様のご協力により
自然と文化だより37号
が発行出来ました。
有難うございました。
(広報委員会)